

もうらい  
望来川水系河川整備基本方針

平成14年3月

北 海 道

# 目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域の概要	1
(2) 治水の現況	1
(3) 河川の利用の現況	1
(4) 流域の自然環境	2
(5) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項	4
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	4
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項	5
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項	5
(参考図)	
望来川水系流域概要図	6

# 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

## (1) 流域の概要

望来川水系は、その源を北海道厚田郡厚田村望来市街北東へ17kmに位置する標高326 mの山に発し、森本の沢川、フモトノ沢川、桂の沢川、南部の沢川などの支川を合流しながら厚田村望来市街地を経て日本海に注いでいる流域面積47.6km<sup>2</sup>、幹川流路延長22.9kmの二級河川である。

河川の名前は、一説によるとアイヌ語のムライあるいはモウライ（「風によって閉じたり、又開いたりする事」の意）に由来していると言われている。

望来川の流域には、望来の市街地の大部分が入り、市街地の中心には日本海側の道北各都市と道央圏を結ぶ国道231号線が通っている。また、望来川の豊かな流れと石狩段丘からなる緩やかな丘陵地及び河口部に広がる低平地からなるその流域は、古くから人々の生活・文化を育んできたことから、本水系の治水・利水及び環境の保全についての意義は極めて大きい。

## (2) 治水の現況

本水系の治水事業は、一定規模の計画での改修は行われず、部分的に護岸が実施されてきた。その後、昭和56年8月の台風により大洪水がおき、浸水家屋33戸、田畑の冠水169haにもおよぶ甚大な被害が生じている。また、雪解け水の増水等により、毎年のように被災している。

## (3) 河川の利用の現況

河川水の利用については、農業用水として約870haに及ぶ水田・畑のかんがいに利用されている。

また、河川利用としては、望来獅子橋付近や望来第2頭首工の下流側などで釣りが行われている。

## (4) 流域の自然環境

望来川流域の気候は、晩秋から春にかけて強い北西風が吹き積雪が多いが、対馬海流の影響を受け、年間を通しての気温差は小さく厚田村の年平均降水量は約1,100mmで農作物の生育に恵まれた環境となっている。

流域の地形状況は、海岸段丘の発達が見られ、下流域では緩やかな丘陵地帯が続いている。また地質については新第三紀層の硬質頁岩、こうしつげつがん 緑色砂岩 りょくしょくさがん で構成されている。

源流から南部の沢川に至る上流部は、自然豊かでエゾイタヤやシナノキをはじめとする手つかずの原生林が山地から河畔にかけて繁茂しており、溪流沿いには河畔林が覆い被さるように繁茂し、崖地が形成されている所ではハリオアマツバメの巣が確認されている。溪流部の瀬にはトウヨシノボリ、淵が形成されている所にはマルタウグイやエゾウグイなどが確認されている。また、水生植物が繁茂している水際にはスジエビが生息している。川から林縁の開けた場所にはエゾタヌキ、エゾシカなどが確認されている。

山間部を抜け南部の沢川からフモトノ沢川に至る中流部は、山林迫る狭い農地の中を、緩やかに蛇行しながら流下している。頭首工直下流の河岸はヤナギ類、オニグルミ、ミズナラなどで覆われており、アオサギ、ハイタカ、ヤマゲラなどが生息している。水際にかけてはアキタブキ、クマイザサ、オオイタドリなどが繁茂しており、瀬や淵にはマルタウグイ、ドジョウ、サクラマスなどが生息している。周辺にはキタキツネやネズミ類、桂の沢川合流点付近のたまりではエゾサンショウウオが確認されている。

フモトノ沢から河口までの下流部は、川幅も広くなり、水田地帯を大きく蛇行しながら比較的緩やかな勾配で流下している。その河岸はヤナギ類、ヤマグワなどの樹木で覆われ、水際部にはオオイタドリ、クサヨシ、ヨシなどが水面に覆い被さるように繁茂しており、カルガモなどが見られる。また、水際のヨシ原周辺ではウグイ、ギンブナ、蛇行部の深みではワカサギ、河口の砂底にはアシシロハゼが生息している。河口付近ではベニマシコ、農耕地にはカワラヒワ、山地から連続する河畔林にはアカゲラなどが生息している。また、周辺の水田や畑でバッタ類、カメムシ類、ハナアブ類が多く確認されている。聞き取り情報によると、過去にアユの遡上が見られたが現在は確認されていない。

望来川の水質は、生活環境の保全に関する環境基準の類型指定は受けていないが、BOD平均値が中流部の桂ノ沢川合流地点において2.5mg/lとB類型の基準を満足し、下流部の望来獅子橋地点において3.0mg/lとC類型の基準を満足する値となっている。

## (5) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川の総合的な保全と利用に関する基本方針は、水害の発生状況、治水事業の現状、河川の利用状況ならびに河川環境の保全などを考慮し、また、既存水利施設等の機能の維持に配慮して、水源から河口まで一貫した計画のもとに、次のとおりとする。

災害の発生の防止または軽減に関しては、望来川流域の社会・経済的な重要度と道内の他河川とのバランスを図りつつ、厚田村望来地区を防御するため、堤防の新設や河道の拡幅等により河積を増大させ、計画規模の降雨による洪水の安全な流下を図るものとする。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、周辺地域の農業用水の利用状況や渇水時における流況を踏まえ、河川情報の提供など関係機関と協力しながら既存水利施設等の機能の維持に配慮し、適正な水利用が図られるように努めるものとする。また、魚介類の生息状況等を踏まえ、関係機関と協力しながら水量・水質に配慮することにより、地域住民と河川との豊かなふれあいの場の確保を図るものとする。

河川の維持管理に関しては、災害発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の保全と整備など、総合的な観点から、適切な実施に努めるものとする。また、河川管理施設については常に良好な状態に保持し、その機能を確保するように巡視、点検及び維持補修を行うものとする。

河川環境の整備と保全に関しては、望来川は豊かな自然環境を誇っており、下流のワカサギが生息する環境や、ウグイやサクラマスなどが生息する瀬や淵、アカゲラなどの生息空間となっている山地から連続する河畔林など、豊かな川の流れに育まれてきた多様な動植物の生息・生育環境の場となっていることから適切な保全措置を講じるものとする。

なお、以上の実施にあたっては地域住民や各分野の専門家の意見を踏まえながら、河川の総合的な保全と利用に努めるものとする。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

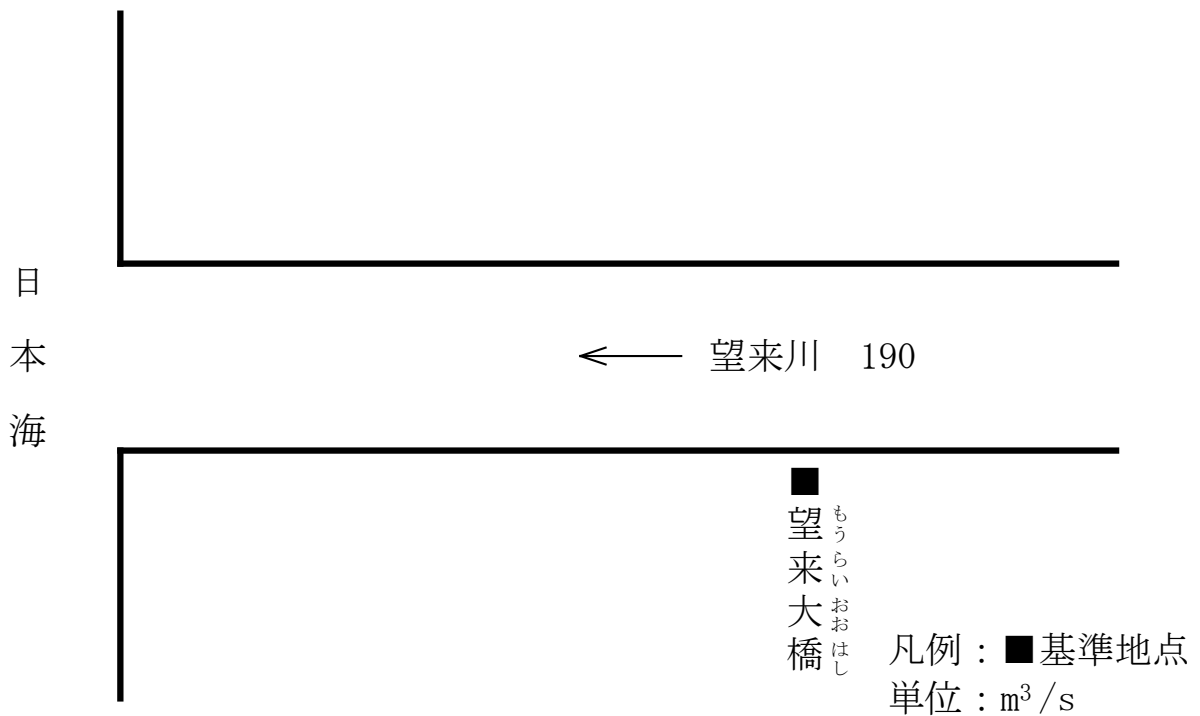
基本高水のピーク流量は、昭和56年8月程度の降雨で発生する規模の洪水を考慮して、  
もうらいおおはし  
 望来大橋基準地点において $190\text{m}^3/\text{s}$ とする。

基本高水のピーク流量一覧表 (単位： $\text{m}^3/\text{s}$ )

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
望来川	<small>もうらいおおはし</small> 望来大橋	190	—	190

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

計画高水流量は、もうらいおおはし  
 望来大橋基準地点において $190\text{m}^3/\text{s}$ とする。



望来川計画高水流量図

### (3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は、次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T.P.(m)	川幅 (m)
望来川	もうらいおおほし 望来大橋	3.1	+5.35	40

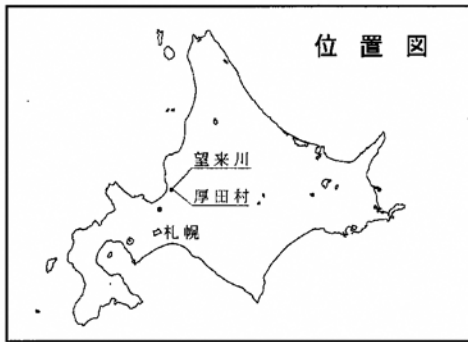
T.P.: 東京湾中等潮位

### (4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

望来川における既得水利は、農業用水として許可水量約0.25m<sup>3</sup>/sの水利権がある。

流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、今後、流況等の河川状況の把握を行い、利水の現況、動植物の保護、流水の清潔な保持などを考慮して定めるものとする。

# (参考図) 望来川水系流域概要図



凡例	
■	基準地点
—	流域界
- - -	市町村界

